

WAKABA

令和6年3月15日発行 文責:本堂

「障害のあるお子さんとなしお子さんがともに学ぶ」ことの理念

「インクルーシブ教育システムの構築」の理念とは何でしょうか？

辿っていきますと平成19年4月1日の「特別支援教育の推進について」の文部科学省初等中等教育局長通知の「1 特別支援教育の理念」の文末にこのような記載があります。

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っている。

このことが意味するものは、平成18年12月に国連にて「障害者の権利条約」が採択され、日本国が同条約を批准するための礎として始まったのが「特別支援教育」です。

更に、平成26年1月の「障害者の権利条約」の日本国批准に向け、共生社会の実現のために文部科学省より平成24年に示されましたのが「インクルーシブ教育システムの構築」既に10年以上が経過しております。

「インクルーシブ教育システムの構築」を更に端的に言い換えると「障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶシステム」です。

令和4年の学校基本調査結果を見ますと、小学校1年生段階のお子さんの内、特別支援学校に就学しているお子さんは、山梨県では1.01%で全国7位となります。本県のお隣の神奈川県では0.50%と特別支援学校に就学するお子さんは山梨県の半分で、地域である小学校へ就学しております。具体的には会話のできる障害のあるお子さんは小学校へ就学しているとのことでした。

この就学時の状況からは、山梨県における「インクルーシブ教育システムの構築」は遅れていると言わざるを得ない状況です。本校を含め、かえて支援学校も小学部1年生入学者数が過去最大の状況で、高等部生徒の増大ではなく小学部児童が100名前後という大規模化が極めて深刻な課題となっております。

本校では、センター的機能の発揮により一人でも多くの障害のあるお子さんが地域の学校で共に学んでいくことができるよう努めさせていただき所存です。通学区域内の教育委員会をはじめ、関係する方々と共に本県における「インクルーシブ教育システムの構築」を支えていきたいと考えておりますので、御理解と御協力をお願いいたします。

学校長 小林 勝

◆◆令和5年度のセンター的機能に関する活動報告◆◆（1月末まで）※（ ）は、昨年同時期の数

教育相談	学校見学	52件(53)
	体験学習(小・中学部、高等部授業体験会の参加、その他個別対応)	60件(31)
	来校・電話による教育相談	136件(107)
訪問支援(地域の保育園・幼稚園・小・中・高等学校等へ出向いての支援)		19件(11)
研修支援(地域の小・中・高等学校の研修会等への協力)		2件(5)

<今年度の状況と来年度に向けて>

- 学校見学・教育相談:本校への就学や転学を検討する際には、地域の学校を見学後、本校の見学という流れをお願いしました。来年度も、それぞれの学校を見学した上で、就学や転学について考えていただけたらと思っています。(学校見学は、R6年6月開始を予定しています。まずは、5月下旬頃にHPに掲載する、R6年度版の「学校案内」「学校紹介動画」から、本校の様子をご覧ください。)
- 体験学習:今年度は、3学部とも実施することができました。実際に本校に来て、授業を体験することで就学・転学先について総合的に検討できたのではないのでしょうか。来年度も、年長児、小学6年生、中学3年生を対象として授業体験会を実施する予定です。
- 訪問支援:小学校・中学校・高等学校からの相談を受けました。学習面や行動面などについての相談が主でした。ケースにより、専門家を帯同することもありました。学校や先生方、児童生徒の様子から、体制づくりや環境設定、支援方法など、様々に工夫されていることが伝わってきました。来年度も相談がありましたら、本校にお電話をください。(※まずは、校内委員会で校内での支援について検討してください。R6年度は4月中旬以降開始予定です。)
- 研修支援:研修支援では、『感情のコントロールが苦手な子どもの理解と支援について』『自閉傾向のみられる児童生徒の特性の理解と進路』についてお話をしました。少しでも、先生方の実践に役立てられればと思っています。

教えて！
わかばちゃん

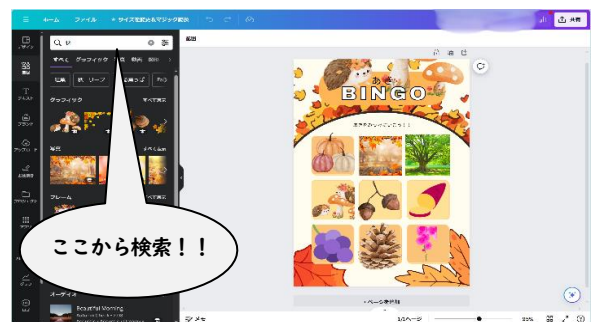


ICT を活用して秋探しビンゴ!

みなさん、『Canva』を知っていますか?『Canva』はオンラインで手軽にデザイン作成が無料できるツール(アプリ版とウェブ版があります。)です。数万点のテンプレートや素材を提供しており、コミュニケーションが難しい生徒や習字に困難がある生徒でも使いやすければ自分で操作して表現・デザインを自由にできます。子ども達が自分のアイデアを視覚的・直感的に表現するのを助けるため、最近では教育的活用事例も増えてきています。今回は本校の活用事例を紹介します。

特別活動「秋を探そう!」で『Canva』を使ってビンゴカードを作り、秋探しビンゴを行いました。秋に関連する素材を検索し、生徒がペアになってマスを埋めていきます。『Canva』の良い点は、リアルタイムでの共同編集ができることです。ほかの生徒のページを画面上で見ることができ、みんなで意見を出し合い協力しながら素敵なビンゴカードを作っていました。完成したビンゴカードを持って、近くの公園に行き、「どんぐり発見!」「かぼちゃはないな・・・」など生徒たちは楽しみながら秋を探していました。見つけたものはタブレットで写真を撮って記録し、教室に戻ってから撮影した写真をみんなで見て楽しみ、活動の振り返りとして活用しました。

ICTは個に合わせた支援に使われることが多いですが、『Canva』は共同して作成できるため、児童・生徒同士の協働を促せます。ICTは目標や学習内容などに合ったツールを選び、多様な使い方ができます。ぜひ、参考にしてみてください。



山梨県立わかば支援学校

〒400-0226 南アルプス市有野3346-3

TEL:055-285-1750

FAX:055-285-5827

担当:インクル推進部(五味 優紀 江上 桐子 鮫田 直子 濱田 結衣)

【URL】 <http://www.wakabay.kai.ed.jp/>

【E-Mail】 wakaba-yg@kai.ed.jp

受付時間

月・金 13:30~17:00 火・水・木 9:30~17:00

